

実施医療機関各位

## 【個別接種】新型コロナワクチン接種に伴い、アナフィラキシーを発症した者への対応について

各位におかれましては、日頃より、新型コロナワクチン接種へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ワクチン接種後の副反応への対応につきましては、これまでも各医療機関において、ご対応いただいていたところですが、今般、他市で発生した事案を踏まえ、接種後にアナフィラキシーが生じた場合に適切に対応いただきたく、改めて周知いたします。

下記のとおり、体制等について改めてご確認くださいとともに、引き続きご対応の程よろしくお願い申し上げます。

### 記

#### 1 ワクチン接種時の注意事項

- ① 接種にあたっては、予診時に、アレルギー疾患の既往や、アナフィラキシーを含む即時型のアレルギー反応の既往について適切に確認すること。
- ② これまでに報告された症例を踏まえると、アナフィラキシーを発症した場合であっても、早期に適切な処置が行われることにより、症状の重症化を回避することができると考えられるため、本剤接種後少なくとも15分間は被接種者の状態を観察すること。  
また、過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を引き起こしたことがある者については、接種後30分程度、状態の観察をすること。
- ③ 被接種者にアナフィラキシー等の副反応がみられた際、速やかに適切な処置を実施し、必要に応じて発症者の速やかな他院への搬送ができるよう、必要な連携、体制を確保すること。

#### 2 ワクチン接種の際の救急時に備えて準備するもの

**別紙1**のとおり

(※別紙記載の薬剤等は参考例です。同一の効果効用のある代替品があれば可です。)

#### 3 アナフィラキシーを発症した際の対応

**別紙2**、**別紙3**のとおり

#### 4 その他

保健福祉局より市消防局に対して、新型コロナワクチン接種を実施する市内医療機関の所在地の情報提供をするとともに、接種後にアナフィラキシーショック等の体調不良者が発生した場合の市内医療機関からの救急要請への対応について協力依頼を行っております。

#### お問い合わせ先

北九州市新型コロナワクチン接種オペレーションセンター

【電話番号】093-383-0747

【受付時間】9～18時（平日・土曜）

ii 予診等で用いるもの

- ・医療従事者用のマスク、使い捨て手袋
- ・使い捨て舌圧子
- ・体温計

iii 接種に用いる物品のうち接種実施医療機関等で準備するもの

- ・消毒用アルコール綿（アルコール過敏症の被接種者用にクロルヘキシジン等のアルコール以外の消毒綿も用意すること。）
- ・トレイ
- ・医療廃棄物容器、針捨て容器
- ・手指消毒剤

iv 救急用品

接種実施医療機関等の救急体制を踏まえ、必要な物品を準備すること。代表的な物品を以下に示す。

- ・血圧計<sup>7</sup>、静脈路確保用品、輸液セット、生理食塩水
- ・アドレナリン（エピネフリン）（※）、抗ヒスタミン剤、抗けいれん剤、副腎皮質ステロイド剤等の薬液

※ 救急用品として具備するアドレナリン（エピネフリン）製剤については、病院等においては、原則としてアンプル製剤（ボスミン®注 1mg）又はシリンジ製剤（アドレナリン注 0.1%シリンジ「テルモ」）によることを想定している。特設会場等については、自己注射薬（エピペン®）によることも想定される。エピペン®を小児に用いる時は、成人で使用する 0.3mg 製剤の他に、0.15mg 製剤によることも想定される。

v 事務用品

- ・ボールペン（赤・黒）、日付印、スタンプ台、はさみ

<sup>7</sup> 年齢体格に応じたカフサイズを検討すること。

#### （6） 接種後の経過観察

接種後にアナフィラキシーを呈することがあるため、接種後少なくとも 15 分間は被接種者の状態を観察する必要がある。また、過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を引き起こしたことがある者については、接種後 30 分程度、状態の観察をする必要がある。

経過観察に当たっては、転倒による怪我等を予防するために、背もたれのある椅子に座って待機する等の対策を講じること。

接種後に血管迷走神経反射として失神があらわれることがあるため、過去に採血等で気分が悪くなる又は失神等を起こしたことがある者については、接種後 30 分程度、体重を預けられるような場所で座らせるなどした上で、なるべく立ち上がらないように指導し、被接種者の状態を観察する必要がある。なお、予診の結果等から血管迷走神経反射による失神が生じる可能性が高いと考えられる者については、ベッド等に横たわらせて接種するといった予防策も考えられる。

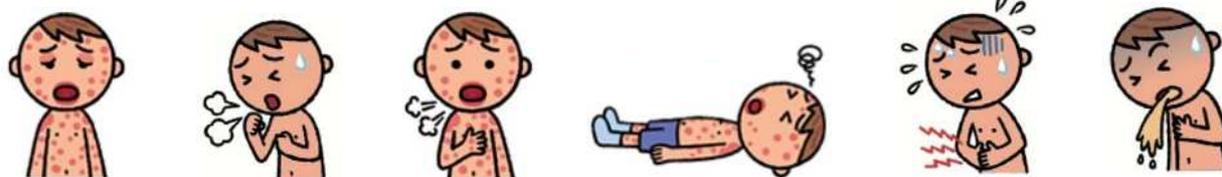
アナフィラキシー発生時の対応については、日本救急医学会作成のワクチン接種会場における「アナフィラキシー対応簡易チャート」「小児用アナフィラキシー対応簡易チャート」(<https://www.jaam.jp/info/2021/info-20210622.html>)等を参考に適切に対応する必要がある。

血管迷走神経反射については、通常、臥位安静にて軽快するが、患者の状態によっては適切な医療機関に搬送する等、適切に対応する必要がある。

また、待機時間の活用の一環として、接種後の副反応への対応方法や、相談・対応可能なコールセンター等の周知、予防接種後もマスク着用等の基本的な感染症予防対策を引き続き継続する必要がある旨等、接種後の生活における注意事項等の周知を行うことも考えられる。

# ワクチン接種における アナフィラキシーショックへの対応

## 接種後に症状出現



## アナフィラキシーかも！？

⇒人を呼び、モニター・アドレナリン・酸素・ルートの準備を依頼する。

仰臥位にし、モニター装着してバイタルサインを確認する。

下記ABCDを確認する。

<b>Airway</b> ：喉頭浮腫	(普段と同じ声ができればok)
<b>Breathing</b> ：喘鳴	(呼吸音に異常がなければok)
<b>Circulation</b> ：ショック	(橈骨動脈を触知できればok)
<b>Diarrhea</b> ：消化器症状	(嘔気嘔吐、下痢、腹痛がなければok)

※皮膚症状は診断に必須ではありません。

ABCのいずれかに異常があれば、

① アドレナリン0.3mgを大腿外側に筋注!

ためらわず、  
アドレナリン  
1/3 アンプル!

② 同時に、**119番通報**する。



③ 気道/呼吸症状があれば、**酸素**を投与する。

不織布マスクの  
上からでok



④ 搬送を待つ間に、**体位**を整える。

ぐったり、  
意識もうろうの場合

仰臥位で下肢拳上



吐き気、嘔吐がある場合

左側臥位



呼吸が苦しく、  
あお向けになれない場合

座位で後方にもたれさせる



⑤ **ルート確保**し、**細胞外液**を全開で投与する。

⑥ 血圧低下が継続すれば、  
5分毎にアドレナリン0.3mg筋注を繰り返す。

※ショックに対して、ステロイドや抗ヒスタミン薬は即効性がないので、  
アドレナリン・酸素・輸液とすみやかな搬送を優先してください。

